

海の玄関口、酒田港の機能強化を目指して

1 取組みの概要

山形県唯一の重要港湾である酒田港は、国際コンテナ定期航路などの国際物流の重要な拠点として、県内の産業と経済を支えています。平成28年のコンテナ貨物量が3年連続で過去最高を更新したほか、平成29年8月に外航クルーズ船の初寄港が決定したことから「ポート・オブ・ザ・イヤー2016」に選定され、物流・観光の両面で活気づいています。

このような中、港湾管理者である県では、コンテナ物流の利便性の向上と機能の安定性を確保するため、港湾施設の整備を行っています。近年では、コンテナを船から積み降ろしする大型クレーンなどの荷役機械や、コンテナを荷さばきするターミナルを整備しています。平成28年にはこれまで9.3haだったコンテナヤードをさらに3ha拡張し、年間6万5千個から最大10万個のコンテナを取り扱うことができるようになりました。引き続き、コンテナの入出管理を行うゲートや管理棟の整備も行っています。

また、外航クルーズ船は、国内船に比べ大型で一度に多くの乗客が港に降り立ち県内各地を周遊するため、その受け入れ態勢の整備も進めています。さらに、海鮮市場や飛島定期航路の発着所などを中心に賑わいをみせている「みなとオアシス酒田」では、インバウンドも含めた観光誘客を推進するため、施設の整備に取り組んでいます。

2 担当職員へのインタビュー

湾港事務所

港湾整備担当

港湾整備主査 **齋藤 正秀**

【採用職種：土木（現・総合土木）】



Q 現在の担当業務を教えてください

県では、3つの港湾（酒田港、加茂港、鼠ヶ関港）を管理しており、港湾事務所では、施設・用地の維持管理や整備を行っています。私の現在の主な担当は、コンテナクレーンの大型化事業です。これは、酒田港には2つのコンテナクレーンがありますが、船の大型化が進行し、小さな1号機では対応できないため、大型の2号機と同スペックの新しいクレーンを設置するものです。平成28年度に仕様書を作成し、平成29年度には3ヶ年にわたる製作・据付工事を発注しました。

Q 皆さんへのメッセージをお願いします！

県職員はサービス業です。県民の皆さんに喜んでもらえるモノづくりのために、一緒にいい仕事・笑顔づくりしませんか？

Q 仕事のやりがい・魅力は何ですか？

現在、酒田港にあるクレーン2基は、平成12年、平成25年に設置されたもので、過去の設計思想や岸壁条件等の再確認に難儀しました。また、クレーンの設計基準が改定され、条件が厳しくなった中で、2号機と同スペックのクレーンを設置するために、各種検討にも苦勞しました。過去の設計資料の読み込みや、クレーンを設置する岸壁を施工した、直轄港湾事務所への聴き取り、業務委託受注者との打合せを密にし、事務所や県庁の担当課の協力の得られたことで、限られた期間（とてもタイトでした！）の中、工事発注できました。現地で日々多くのコンテナが積み降ろしされるのを目の当たりにするたび、物流面から港湾の機能強化に直接携わることができるスケールの大きな仕事だと実感しています。これからはよりよい施設とするため、施工業者＝利用者＝県の三者で連携し、完成を目指していきます。



【拡張された酒田港コンテナヤード】